

市況月報

肉畜および食卵食鶏（9月分）

（大阪市食肉卸売市場）

牛肉は9月になり消費の伸びが期待されたが、上旬テキ用肉を中心に、煮込み用等の需要に色を見せた程度で、中、下旬一般消費が伸び悩み、相場も軟調を続けた。今後も伸び悩みは続くだろう。

豚肉は今月も引続き全国的に品不足で大阪市場も依然入荷量が少く、相場も高値を続けた。今後も品不足解消の見込みはなく、相場も堅調が続くだろう。

（大阪中央卸売市場）

鶏卵 9月は8月より大きく産卵が減少し、大阪への出荷量も大幅な減少をみた。

従って相場は前月に引続き9月に入り高騰を続け、31年に次いでの記録的高値を呼ぶに至った。

今後は行楽シーズンをひかえているが、反面4月ビナの産卵開始等の好条件が揃っているため、ある程度相場は下げ歩調となるだろう。

食鳥 今月は例年通り消費の中だるみ時期で相場も低調に推移した。以後は年末にかけ、需要期を迎えるので上向きが予想される。

中物平均価格
(Kg当り、単位円)

畜別	33.9	37.9
メスオス	391	405
オス	380	396
豚	342	384
	425	280
卵(1級品)	223	196
ブロイラー	186	227
親鶏	136	134

阪神地区入荷推定数量

地区別	卵	ブロイラー	親鶏
	個	羽	羽
岡山	1,088,000	26,000	24,000
香川	748,000	40,000	33,000
大阪	1,306,000	78,000	69,000
その他	2,715,000	175,000	105,000
計	5,857,000	319,000	231,000

共同出荷実績

出荷者別	卵	ブロイラー	親鶏
	個	羽	羽
経済連	566,810	—	—
西大寺	35,716	—	—
美作	72,402	—	—
養鶏加工連	—	12,100	—
計	674,928	12,100	—

飼料価格（9月）

岡山県平均一

（農林省岡山統計調査事務所調べ）

〔農村物価賃金調査—農家購入価格〕

品目	価格	比較
養豚用 上・蛋三 ス五白〇 フ%一Kg 袋以二粗	九四 横 バイ	比前 同前
乳牛用 上一用三 ス三粗〇 フ%蛋Kg 袋以白乳	九三 横 バイ	比前 同前
成鶏用 以白二 上一〇 五Kg %蛋	六九 一 安	比前 同前
若どり 上一七 %以	七三 横 バイ	比前 同前
育雛 %一袋二 以六粗〇 上・蛋Kg 五白紙	九一 横 バイ	比前 同前
混合 麦ぬか 合か （配合）	七四 五 高	比前 同前
米ぬか （ ）	六五 三 高	比前 同前
ふすま （三〇Kg俵）	八〇 二 高	比前 同前
大豆粕 （三七・五Kg）	二八 六 高	比前 同前
魚かす （九〇Kg モいわし）	四二 〇 横 バイ	比前 同前

高値で推移か

年末にかけての鶏卵、食肉市況の見通し

◎鶏卵

県下の鶏卵生産量は10月に続きこのところ昨年を10%方上廻っているものと推定される。

最近の大阪市場への鶏卵入荷量は昨年を15~18%増としり上りに増加してきている。このため、相場は11月に入り、さらに下押し、大阪中央卸売市場一級品仕入値は月初め197円(kg当り)で、以後中旬にかけて横ばいを続けている。消費は11月中旬やや伸びなやんだが農繁期の影響から入荷減もあり需給がほぼ保合った。

今後の消費はマヨネーズ向け年内不足分の手当買いが若干見込めるようであるが、一般家庭用の消費は景気不振から低調の見通しである。

12月の相場の見通しは11月下旬から上向き、生産は引続き昨年をかなり上廻る見込みであるが、中旬以後年末用の需要がかなり見込めるので、昨年末のような高値は望めないが、一時的には230~240円(大阪1級品一仕入れkg当り)程度まで上げるのではないか。

なお本年秋ナビの生産が全国的に昨年を約30%上廻る模様であるため、明年3~4月以降の鶏卵生産はさらに上向くものとみられている。

◎牛枝肉

大阪食肉市場における10月中旬までの牛の入荷は1日250頭前後で相場はほぼ保合いであった。さらに月末から11月初めの入荷増から、上旬にはやや下押し、ぬき中値(卸平均、kg当り)376円で保合っている。

牛肉の消費は肉豚不足、魚類高に加えて年末の需要期に入るので、上物を中心にかなり期待がもたれる。一方大阪市場での今年の肉牛の入荷は1~9月において昨年対比27%増しと増加しており、これから年末にかけて農繁期も終り、枝肉共進会その他で入荷もさらにふえる見込みであるが、輸入肉の出廻りは年内には少ないとみられるので、相場は12月に入りやや上向き、すそ物の相場は高値に見込めない

が、上物はかなり伸びるとみられ、ヌキの高値は430円(大阪)程度が見込まれるようである。

岡山市場における牛枝肉の入荷もこのところ順調で11月中旬ヌキ中値400~410円(卸kg当り)程度でほぼ横ばいしている。11月から12月にかけて開かれる枝肉共進会の上物入荷もかなり見込まれるが、上物の売行は順調の見通しである。

◎豚枝肉

肉豚の生産は当初の予想をかなり下廻り、全国的に繁殖メス豚飼養頭数が36年初めの水準にあり、子豚生産の回復が遅れていることから、急激な供給増加は望めない状況である。

大阪食肉市場でのこのところの肉豚入荷も昨年と比べ20%方少なく、10月下旬に反落をみせた豚枝肉価格は11月に入り再び上向き、中旬には大阪食肉市場御中値(kg当り)420~430円、岡山食肉市場でも415~420円と10~20円方上げている。これは農繁期による入荷減もあったためとみられ、今後入荷はある程度回復するものと思われまた輸入豚肉4,300tが11月末から12月にかけて出廻り始めるので、12月上旬にかけて相場はかなり緩むものとみられている。しかし国内肉豚供給不足の基調はかわらないのでそれほど値くずれはなく、年末にかけて400円をやや下廻る程度で推移するのではないかとみられる。

子牛子豚市況(10月)

子牛 10月の子牛セリ市の開設は本県ではじめてであり、県外県内の顧客により買進まれたが、最近の生産減による入場頭数の激減は殊の外きびしい。また規格向上運動により体積がよくなったがお客に大変喜ばれている。

子豚 久世子豚セリ市は遠近の農業団体、業者により買い進められ活気のある取引が行われた。子豚の需要は依然旺盛であり、当分強保合いが続く見込みである。

岡山畜産便り 1963.11

子 牛

開設 月日	性別	入場 頭数	売買 頭数	売買率	1頭当りの価格			県外 移出
					最 高	最 低	平 均	
10.6	メス	252頭	209頭	83%	88,100円	8,000円	37,674円	169頭
↘	オス	213	203	95	51,600	8,500	30,878	197
10.8	ヌキ	40	39	98	50,000	17,100	32,930	36
津山	計	505	451	89	88,100	8,000	34,424	402

子 豚 久世子豚セリ市 10月18日

性別	入場 頭数	1頭当りの価格			前月比	前年同期比
		最 高	最 低	平 均		
メス	155頭	10,600円	2,500円	6,765円	+100円	+2,900円
オス	137	11,300	4,800	6,800	+500	+3,200
ヌキ	41	10,000	1,500	6,704	+300	+2,600
計	333	11,300	1,500	6,772	+300	+3,000